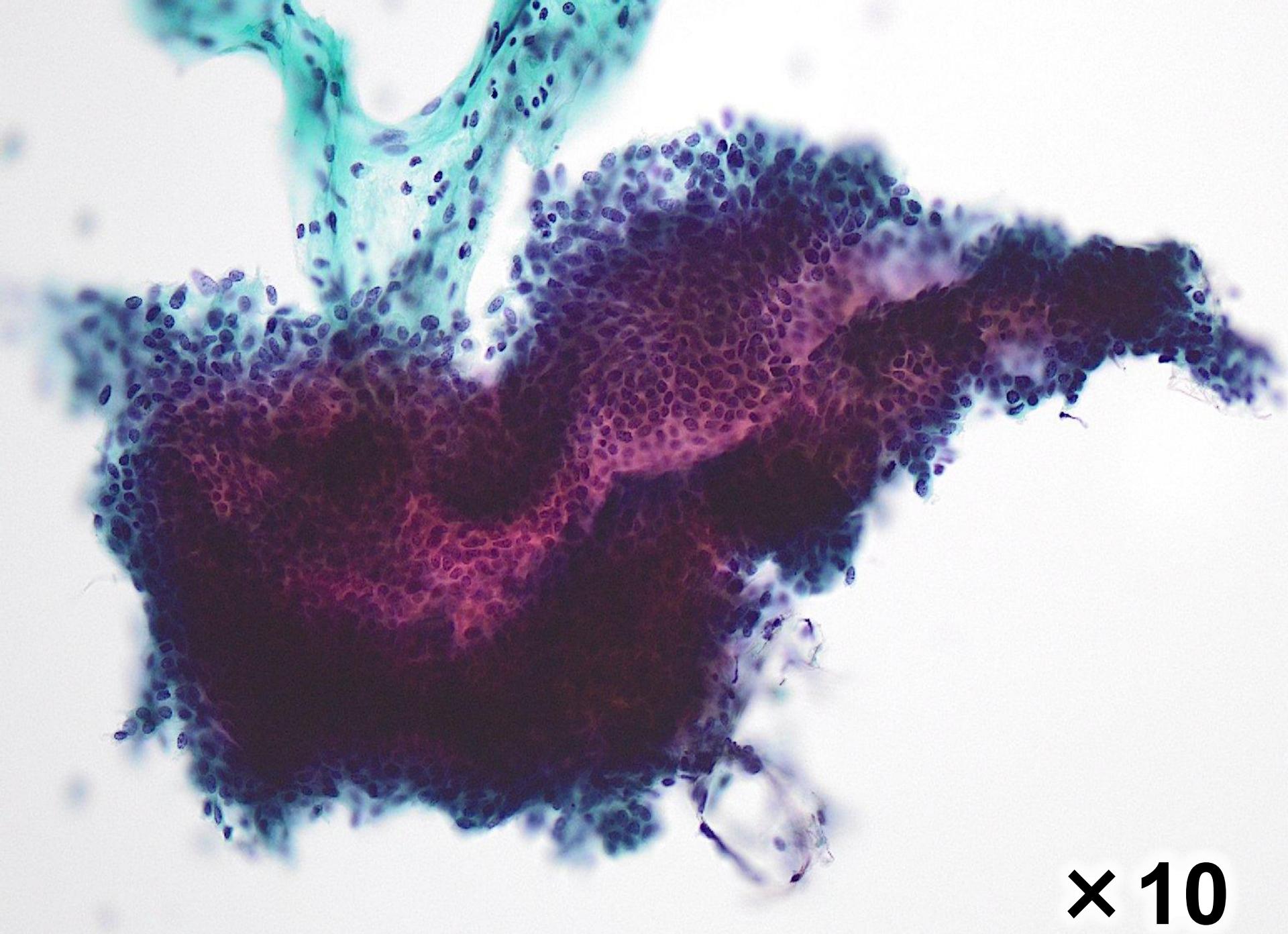


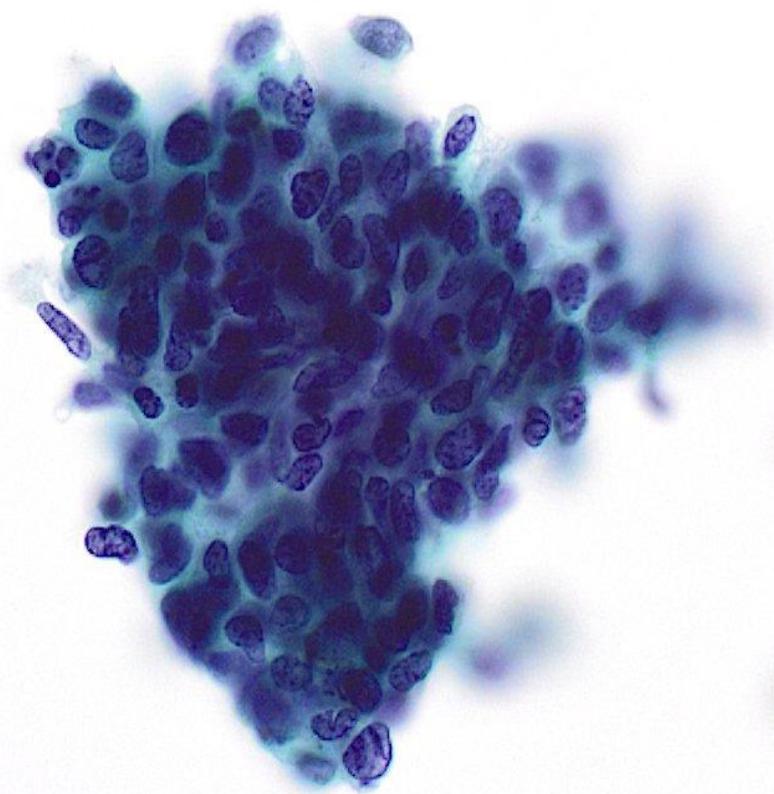
# 症例2 子宮頸部 (液状化細胞診 ; LBC法)

- 症 例 : 50代、閉経後
- 主 訴 : 不正性器出血
- 既 往 歴 : 4年前にCIN3に対して子宮全摘術.
- 臨床所見 : 切除断端陽性により、3年前に放射線治療、蒸散術施行. その後、ASC-Hでフォロー中
- 採取部位 : 子宮腔断端
- 採取方法 : サイトブラシ
- 標本作製 : 液状化細胞診；LBC法、シュアパス

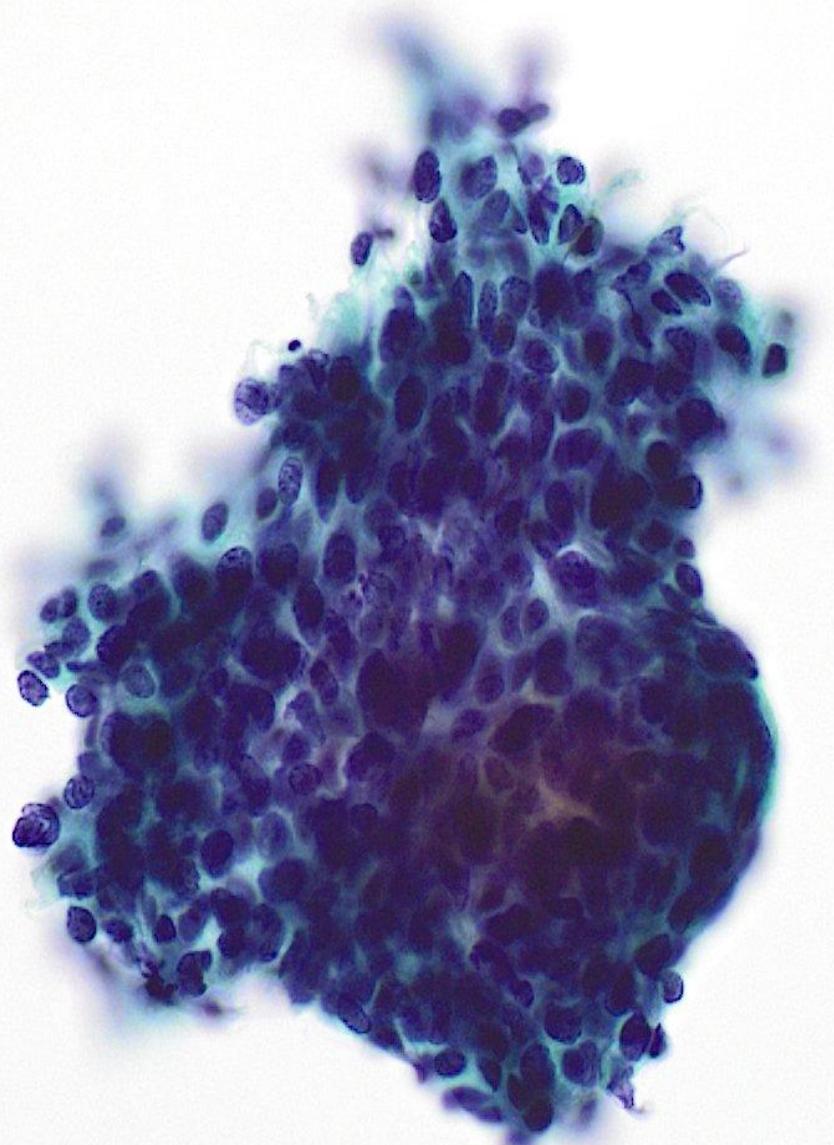


× 10

**×40**

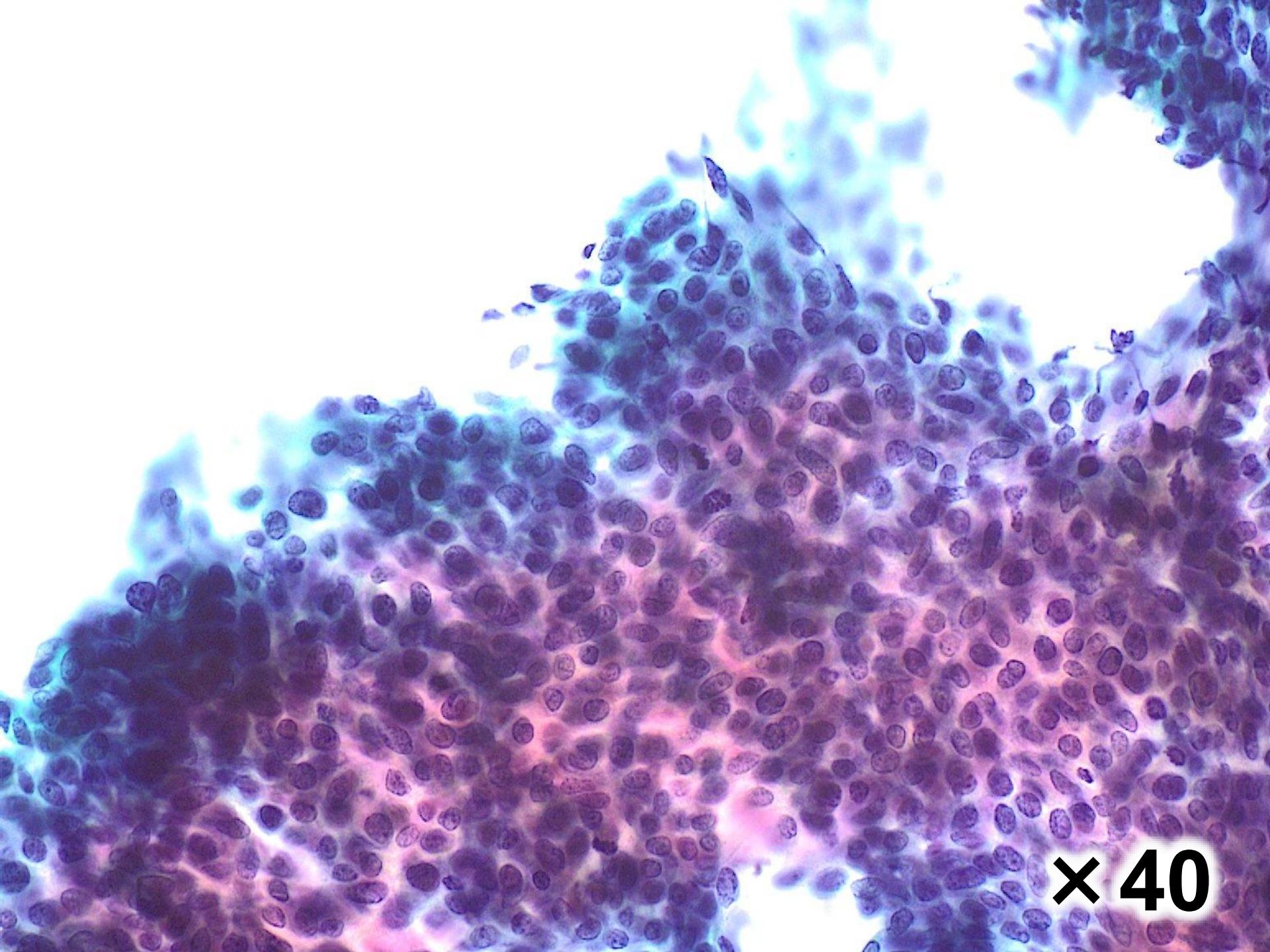


**× 40**



× 40

**× 40**



**× 100**

# 選択肢

1. NILM ／萎縮
2. NILM ／放射線照射に関連する反応性細胞変化
3. ASC-H ／HSILを除外できない異型扁平上皮細胞
4. HSIL ／高度扁平上皮内病変
5. SCC ／扁平上皮癌